

議長定例記者会見 会見録

日時：平成 22 年 8 月 9 日 10 時 30 分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- ・ 「第 4 回紀伊半島三県議会交流会議」の開催報告について

(議長) どうもおはようございます。ずっと暑い日が続いておりましたが、今日は雨の影響か少し温度が下がったようですが、逆に北勢地域では警報が出ているということで、非常に不安定といたしますか、なかなかよくわからないお天気が続いております。今から 8 月の定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。今日は議長メッセージが 1 つと発表事項が 1 つ、それぞれ先にお話をさせていただき、後また皆様からの質問等をお受けさせていただきたいと思っております。

議長メッセージでございますけれども、これは 8 月 2 日、大阪で開催いたしました「第 6 回全国自治体議会改革推進シンポジウム」についてでございます。

全国から 94 議会の関係者の方を始めとしまして、565 人、名前を書いていた方が 565 人ということでございます。壇上から見ておりますと、もっとたくさんの方が来られているようなそんな印象を受けたわけですが、いずれにしても名簿だけでも昨年を上回りまして、これまでのシンポジウムの中では最大の規模といたしますか、最も多くの方々にご参加をいただいたということで喜んでおります。シンポジウムの内容はご案内のとおり、内閣総理大臣補佐官の逢坂誠二さんから「地域主権改革の動向」と題しまして、ご講演をいただいた後、パネルディスカッションを行いました。議会内閣制ですとか、地域主権下における議会の役割等、活発に議論をさせていただき、また会場からもさまざまなご意見をいただき、非常に盛り上がったシンポジウムだと思っています。とりわけ、コーディネーターを引き受けていただきました星浩さん、また、それぞれパネラーとしてご参加いただきました、大阪府知事の橋下徹さんですとか、元総務大臣で前岩手県知事の増田寛也さん等々、非常に内容のあるお話をいただきまして、感銘を受けたところでございます。こういう機会を

通じてさらに一層議会の改革ですとか、また地域主権改革の流れの中で、議会の在るべき姿、また地方自治体のこれからの姿勢等がしっかりと議論される、そういう契機になればと思っているところです。今回のシンポジウムの成果もこれからしっかりと検証させていただいて、今後の三重県議会の改革にもぜひつなげていきたいとそのような思っておるところでございます。

発表事項といたしましては、「第4回紀伊半島三県議会交流会議」を開催させていただきました。前にもお話をさせていただきましたとおり、7月26日月曜日に奈良の春日野荘におきまして、紀伊半島にかかわりのあります三県、和歌山、奈良、そしてわが三重県、この三県の議員17名が出席いたしまして、紀伊半島における観光振興、また林業振興、道路整備の各課題につきまして、意見交換をさせていただいたところです。林業振興につきましては、総合的な林業振興対策について、今後三県で取りまとめて、単に意見交換するだけではなく、国へ要望書を提出するということが合意をされまして、会議の内容につきましては、発表事項のお配りをさせていただいております資料「第4回紀伊半島三県議会交流会議議長まとめ」をご覧いただきたいと思います。来年は和歌山で開催されるということが決定されました。今後とも三県でしっかりと交流連携を取りながら、半島振興に関してしっかりと要望を国の方にもお伝えし、また議論の内容も深めていきたいと考えておるところでございます。以上議長からの冒頭のメッセージと発表事項でございます。後はまた皆様方からのご質問を受けさせていただきたいと思います。

2 質疑応答

(質問) まずは議長メッセージの件で、大阪でのシンポで大阪の橋下知事と議会内閣制と二代表制でかなり激しく討論されたと思いますが、感想をお聞かせ願えますか。

(議長) 非常に橋下さんは見かけによらず、するどいお話をさせていただいたと思います。特に議会の在り方についての本質的な議論がかなりできたのかなと思います。もちろん、基本的な考え方や立場は違いましたけれども、従来の議会内閣制の第1案、いわゆる首長リーダー制の議会内閣制の議論から、議会リーダー制の議会内閣制もあるよというようなお話もいただきまして、ある意

味ではみんなの議論が深まったのかなと思っています。すぐさま、それに組するということでは当然ありませんが、よくそういう内容も検討させていただいて、今後の議会議論の中に生かしていきたいと思っております。あの種のシンポジウムというのは、あまり堅苦しくて面白くないというのが今までの通例だったようですけども、それぞれ言いたいことを充分言わせていただきましたので、会場の方からも、またあと参加された方のご意見を聞きましても、非常に盛り上がって、ある意味面白かったというようなお話もいただいておりますから、今後ああいう形でのシンポジウムの在り方もいいのかなと思っています。

(質問) 理想議員内閣制というかミニ議員内閣制というか、そういうものについては今回の議論を経て、ある程度そっちもありかなというお考えなんですか、それともやっぱりだめだろうと……。

(議長) いやいや、これからいろんな議会像についての議論が出てくると思います。とりわけ、総務省の元に置かれております地方行財政検討会議の中で、いくつかのパターンの議会モデルというものが提示されてくると思います。そのモデルをどういう形で選択していくのかという時代に恐らくなるんだろうと。日本中、360万人の横浜市から200人の青ヶ島村まで同じ議会制度でなければいかんということにはこれからはならない。それぞれの地域地域、そこにお住まいの住民の方々が自分たちの自治体にとって一番ふさわしい議会制度というものが選択できるという時代が来るとは思います。そういう中で純粋の二元代表制をとるのか、それともまた一部橋下さんが言われるような議会モデルが入ってくるのかはこれからの議論だと思いますが、私どもとしては、憲法が想定している二元代表制の枠を超えたモデルというのはいかななものかと思っております。あくまでも憲法の想定する枠内での、いくつかの議会制度、議会モデルの中から選択できる、そういうふうな方向にもっていきたい。これまで三重県議会の議会基本条例できちんと二元代表制を堅持していくことをうたっている以上、その立場の中での議論をさせていただきたいと思っております。

(質問) ということは、今回の議論とかあるいは今後国の議論等で新たな地方の議会も含めモデルが出てくるときに、それに別に組して三重県議会がどうのこうのというわけではなくて、むしろ、もともと定めた二元代表制の想定枠、憲法の枠の中での二元代表制を堅持するという思いをここで固められたということですか。

(議長) 固めたというか、そういう方向はもともと持っておりまして、同じ方向で全国都道府県議会議長会もそういう結論になっております。全国都道府県議会議長会を通じて、国の方にも意見も申し上げておりますし、全国市議会議長会また町村議会議長会、また知事会もほとんどの方々が今までの二元代表制を堅持というご意見でございますから、恐らくそういう枠の中での議論がこれから進展するのではないかと思います。その中でしっかりと発言をしていきたいと思っております。

(質問) たらればの話はあんまり良くないですけども、ただ、もし、これで大阪が進んでですね、一部執行部内に議員を取り込むということが仮にできた場合ってというのは、それはそれで、他県は何も口を出せないわけですよ、あるいは全国議長会は全然口を出せないですよ。

(議長) ただ、もし、議員を議員の身分のまま執行部内に取り込むということになれば、議員の兼職を禁止しています自治法、これを改正しなければいけませんから、自治法改正の議論の時に大きな問題として登場してくるのではないかと思いますから、勝手に一部報道でシンポジウムの翌日ですか、大阪府議会の正副議長及び各派の代表に対して橋下知事の方から大阪だけでも先にやりたいというような申し出があったと聞いておりますが、もし、やるとすれば、当然のことながら、自治法改正が必要だと思っておりますから、大阪府だけで勝手にできるという話では恐らくないと思っております。

(質問) 今、議長がお考えの、ある程度事情は変わってきているわけですけども、あるべき姿というのは、ベースは二元代表制をしながらもある程度柔軟なフォームというのも可能だということですか。

(議長) 議長ということではなくて、個人的に言わせていただければ、橋下さんの提起された、例えば、議会とか議員が予算にかかわっていくという、これは非常に重要な指摘だと思っております、二元代表制を堅持しながら、議会として予算の編成作業にどうかかわっていくかというのは、これからしっかり考えていかなければいけない問題だと思っております。

(質問) これは、もともと二元代表制議論うんぬんがあった4、5年位前、もっとその前から議長がずっとそう言われていて、予算編成権については。しかもお書きになったこともありますよね。

(議長)あります。

(質問)そこからいくと、わが意を得たりということですか。

(議長)ですから、議会は住民を代表する機関ですから、住民の多様な意見というものを議会で一つにまとめて、予算はこういう姿、こういう内容のものにさせていただきたいとか、こういう方向で予算編成をさせていただきたいというのは、議会としては当然の話だと思います。先のシンポジウムの時でも、橋下さんが指摘したのは、議会は各党派別に要望を持ってきて、それ以上のものはないと。議会が一つの意見としてもって来るならば、これは尊重しなければいけない旨のお話もございましたので、やはり、議会として、議会意思を一つにまとめ上げていくという、ここが最大のポイントだろうと思いますし、また、そういう形にシステムとしてもしていかなければいけないだろうと思っています。これは、これからの議論です。

(質問)あと、場所については、今後も他県に乗り出してということはあるんですか。

(議長)はい、今回の大阪で開催されたことをよく検証させていただいて、他県の連携等も含めて考えていかなければいけないと思います。ただ、今回のシンポジウムに例えば、鹿児島県の議長さんですとか、青森の議長さんですとか、沖縄の議長さんですとか、大分の議長さん、日頃親しくさせていただいている議長さんもどんどんご参加をいただきました。その理由の最大のところは、もちろんシンポジウムの内容に関心があったということは当然なんですけど、やはり交通の便が良かったと。これ、三重県ならなかなか行けなかったよというお話も承っておりますので、そういうことも含めてあのシンポジウムをもう一度よく検証、総括をさせていただいて、今後、どういうふうなシンポジウムの形にしていくかということも考えていきたいと思っています。

(質問)ということは、交通の便を優先する場合は他県でやるということもあり得ると。

(議長)ですから、皆さんのご意見をよく聞きまして、やはり三重県で、三重県の議会が主催するんだから、基本的には三重県でやるべきだというようなお話も当然あるわけですから、そういうふうなお話も承り、また、シンポジウムの内容、形態等を考えれば、逆に東京でやった方がいいよというような場合も

なきにしもあらずだと思いますから、そういうことも全部含めて柔軟によく検討させていただきたいと思います。

(質問) あの日にはですね、橋下知事が修正案として提案された、議会のリーダーのもとに知事が事務局長的な役割で中に入って予算編成、議会が中心となって予算編成したものを執行していくという案を提案されましたけれども、今改めて、その案に対する議長としてお考えというものはどういうものですか。

(議長) はい、あのとき、唐突にああいう案が出てきました。その後、大阪府のホームページですとか、知事の記者会見、橋下さんの記者会見等を拝見しますと、必ずしもそこまで明確な話ではなしに、知事と議会の方で予算編成をする別の協議会みたいなものを作って、内閣みたいなものを作って、そこで予算案を作っていくというような、それを作った上で改めて執行していくんだというようなお話も少し出ているようですから、まだ、内容等出たばかりですので、いろいろ専門の先生方のご意見も聞きながらよく分析をさせていただきたいと思っています。

(質問) 紀伊半島交流会議について、何かありましたら。

(議長) 今回、特に林業のことについてはかなりつつこんだ議論があったと思うと思います。副議長もいろいろ林業の提案もしていただきましたので、副議長の方から何かコメントがあれば。ないですか。

(質問) この結論めいた「これまでと違った視点からの施策立案が重要であるとの点で意見の一致を見た」というのは、どういう視点の切り替えというのが必要だったんですか。

(議長) 今まで、道路に関しては国の方に三県で要望を出したりというようなことがありましたが、それ以外、観光とか林業とか個別の政策について三県で意見交換、三県議会での意見交換はしてまいりましたけれども、今後これをどうしていくかというような具体的なところに至るということはありませんでした。今回ある意味では非常に活発な議論をさせていただいて、林業振興、これは単に業としての議論だけではなしに、全体の例えば、環境面ですとか、それに伴う例えば、道路の問題ですとか、そういうことも含めてかなり幅広の議論ができて、それで内容の意見調整がついたものですから、国へ具体的に要望ができるという段階まで持ってこれたと思っています。特に、観光なんかですと、

中国、対中国の視点だとか、新しい問題提起が今回されまして、単に今までのような三県に対してどうぞお越してくださいという議論から積極的に東アジアに対して打っていきこうじゃないかと、つまり中国の方々を中心にこちらの方からどんどん情報発信をして打って出て行くというそういうふうなことも必要ではないかというようなご意見も出たところです。また、道路につきましては、従来もいろいろ道路の要望をしております。しかし、その中で道路に対する投資というのが非常に厳しくなってきたのはご承知です。そういう中で、なおかつこの半島を歩いていくこの道の重要性を改めて議論がされました。そこらあたりのところの認識も共有されたということです。

（質問） 知事側は三県知事会でやっているわけですが、紀伊半島。まあその世界遺産の成果というのもあったわけですが、ある意味、議会と執行部側というかその広域がそれぞれバラバラでやっている部分があって、その一度ぐらいは執行部側三県知事と三県議長なり議員にも、そういう話し合いの場ってというのが必要だと。

（議長） そこまでいきませんでしたけれども、先の三県の知事会で、吉野、高野、熊野ということの3つの国の立国宣言、建国宣言をして、国旗まで決めたという経緯もありますから、我々も同じような立場で議論していきましょうよということは合意をなされておりますから、今後、同じ吉野、高野、熊野のですね、この国をどうしていくかということの議論の中で、知事会との連携、また考慮ということも考えていかなければいけない部分だとも思います。

（質問） あの国宣言というのは、将来、道州制の別枠組みというのは考えすぎですか。

（議長） 全く関係ないと思います。ただ、私どもも、会議の議論で単に建国宣言をして国旗を決めただけで、いきなり観光振興ができるとか、道路整備が進むという話では当然ありませんから、よりこういうものの中身をより具体的に、もっと深めていくことが必要であろうということは、三県の議会の代表の中での議論では一致したということだと思います。

（質問） 既に三重県の場合、日本まんなか共和国もあるんですけど、こういう形で重層的というか、屋上屋という見方もできますけど、その辺は議会としてはOKなんですか。

(議長)それは特に、議会が将来、これが先ほどおっしゃったような道州制だとか、また都道府県の広域連合等に結びついていくというようなベクトルの話ならばともあれ、それぞれの地域地域の共通の課題、これを解決するために協力していこうということであれば、それがたとえ重なってもそれは何ら問題は無いのではないかと思います。

(質問)伊勢湾フェリーですけれども、行政の支援で存続の方向で調整ということなのですが、それについて当然、地域議会の、議会でも議論することになると思うんですが。

(議長)私どもは、今の段階では新聞で報道された以上のものは知りえておりません。そういう意味で新聞報道、各紙いろいろ出ておりますが、その報道の内容そのものが正しいのか正確なのかということもまだ確認された段階ではありませんので、あくまでも新聞で報道された内容について、ああこういうことなのかということくらいしか一般的な知識としては持っていないということです。

(質問)そういう方向で調整しているということについては。

(議長)まあ方向で調整をしているということで新聞に出ておりますので、そういうことをご努力をいただいているということに関しては、もしそれが事実ならば、敬意を表したいと思います。

(質問)議会としても、そういう提案があれば。

(議長)当然、検討させていただきます。当然、予算措置とか、いろんなこともありますから、それぞれ合意がなされて、ご了解いただいたということになれば、当事者間で、議会の方にもしかるべき時期にご説明があるだろうし、またしてもらわなければいけないということです。

(質問)議会の方でも存続に向けて、当然。

(議長)要請、陳情もいただいておりますので、そういう方向で議会も努力をしてきましたから、もしこういう存続決定ということで、大きく進展しているということならば、歓迎すべきことだところと思いますが、当然、予算の問題等いろいろございますので、そういうことが具体的に出てきた段階で、議会とし

で判断をさせていただくということになると思います。

(質問) そういった予算を伴う支援もやむを得ないという議長のお考えがあるということですか。

(議長) 内容を見てから判断をさせていただきたいと思います。

(質問) 一つ確認なんですけど、一部、報道の中に、この20日に全員協議会を三重県議会が開いて、そこで説明を受けるというのがありました。それは事実ですか。

(議長) いや、もしこういうことが具体的になったとして、ここに新聞で20日に何か協議会が開かれてうんぬんということですから、そういうことで協議会が開かれて、2県2市等で合意がされ、しかも近鉄、名鉄さんもお了解ということになれば、できるだけ早い時期にそういうことが決まったら、できるだけそれから早い時期に当然、議会の方にもご説明をさせていただきたいということになると思います。ただ、それが決まったのかどうかも、決まるかどうかよく分かりませんので、決まった時点で、当然、判断をさせていただきたいと思います。ただ、失敗したという時も、僕は全協を開いて、当然、なぜ失敗したのかということもご説明いただかなければいけないと思います。

(質問) 三重県議会として、議事日程の中に全員協議会を20日に持つてくるということと、名鉄、近鉄さんが話し合うとかいうことは、はっきり言って別個の話であって、あくまで議会マターの日程ですよ。その中で、20日が全協を開くというのは、全く議会の中の内部の話ですから、それについては今、20日の全協の予定があるかどうかについてはどうですか。

(議長) ありません。

(質問) ないんですね。

(議長) ないです。20日に決まったという話は聞いておりませんし、20日に開くということが決定された事実も当然ありません。今申し上げましたように、もしそういうふうな方向で今、協議会の調整がなされておって、そういう結論が出るということならば、結論が出れば速やかに議会にご説明をさせていただきたいと思います。

(質問) じゃあ20日に開くと書いてあるのは誤報なんですね。

(議長) 誤報かどうかはよくわかりません。

(質問) 今のところ、議会の中に20日っていうのはないんですね。

(議長) ありません。

(質問) 今のところ。

(議長) はい。20日に決まったということは全くありません。

(質問) 議長、報道が正しいのか確認できないということでしたけれども、確認されようとはしているわけですね。

(議長) いや、別に確認する必要もないんじゃないですか。あなたの書いた記事が正しいかどうかと私が聞くという立場でも当然ありませんので、議会として20日ということに正式に全協を開くということを正式に決定したという事実はないということを申し上げている。

(質問) 全協の話ではなくて、そういう方向で調整しているという話自体について、関係している人に確認はされていないんですか。

(議長) 確認しておりません。新聞報道を拝見して、ほおこういうものかということで、思っただけでありまして、なかなか正直なところ、ナイーブというか、非常に大事に取り扱っていかなければいけない案件だと思っておりますから、そういう意味でも我々の発言もそれなりに慎重さと丁寧さが必要だと思えます。

(質問) 赤字が出ている交通機関に行政が支援するというのは過去にもあると思うんですが、なかなかうまくいかない事例も多いかと思えます。議長の私見として、そういうことについてはどういう考えがあるのかと。

(議長) あくまでも個人的な見解としてお聞きをいただきたいと思います。これはケース・バイ・ケースだと思います。民間で今までいろいろとご努力いた

だいて、存続、継続が非常に厳しいというところにあえて公的な関与をして、それを維持していくということは非常に困難であるということは、間違いがないと思います。しかし、それを上回る公的な利益と言いますか、そういうものがあるということであれば、恐らく県民の皆様方や多くの方々が、ご理解ご納得も当然あると思います。そういうことならば、一定の公的な関与というものも許容されるのではないかと思いますから、その辺りのところは、やはり後でまた内容等をしっかり聞かせていただいた上で、議会として議論をし、判断をさせていただくということになると思います。

(質問) その辺の部分についても、協議会の方でどれくらいの地元にとっての打撃があるのかなあというのを調査しているので、その結果の報告を受けて、議会として判断をされるということですか。

(議長) 当然そういうことです。

(質問) 既に協議会の方でこういう影響があるよというのは、これまでもまとめて出ていますが、それも議長もご覧になられて。

(議長) ですから折り目、節目の県が公式にお話をされているようなことについては、我々もその旨聞いております。ただ、この記事に出ておるほど具体的な内容、方向性について、今の時点で私どもが存じ上げているということでは当然ないということです。

(質問) 場合によっては、出資比率っていう部分もかなり問題になる検討課題。

(議長) ですから出資比率も問題、どういうことになるのかということもありますし、具体的に経営そのものに対してどのような関与をするのか、全く関与をしないのかということもあります。ですから公的な部分で、ある程度のお金を出しても、後の経営は全く民間の方にお任せをするということなのか、また一定の関与をしていくのかというようなことも含めて、これからの議会としての議論だろうと当然思います。

(質問) 四日市港のハイパー選定外れがありましたけど、それについては。

(議長) 本当に残念だと思っております。ある程度期待もいたしておりまして、特に私は木曾岬が地元ですから、もしこのようにコンテナの戦略港に指定をさ

れますと、木曾岬等のあの地域を含めて大きく変貌するのではないかという大きな期待感も持っていただけない、今回、選にもれたのは非常に残念だと思えます。しかし、あくまでも今回のコンテナという一つの 카테고리 の中の議論で進められてきております。そういう意味では、名古屋港等ですね製造品の出荷等は非常に大きいのですが、コンテナの取扱量ということでは先行する2港に少し遅れをとったのかなという思いがしてございまして、結果として非常に残念ということに尽きます。

(質問) その件で何か事後に岡田さんとお話があったりしたんですか。

(議長) いや、しておりません。聞いている話では、岡田大臣も非常に力を入れておったということですが、客観的ないろんな数値で決められたんだろうとこう思いますので、それについてとやかくいうような人でもありませんから、何のコメントも聞いておりません。ただ、今後、前原国交大臣が従来どおり支援をしていきますよというお話ですが、やはりこのコンテナ戦略港から選がもれたということになりますと、国はこのコンテナ戦略港の方にある程度重点投資をするでしょうから、その分、伊勢湾スーパー中枢港湾としての従来どおりの水準のご支援が国からいただけるのかどうか、一部少し危惧をしておりますので、しっかりと議会の他の方々ともご相談をしながら、国からの支援が継続して行われるように努力をしたいと思います。

(質問) あわせて津、松阪が重要港湾を外れました。そういうのからいくと中部が比較的割食っている部分という感じがするんですけど、その辺はどうですか。

(議長) 重要港湾の選定というのはよくわからないんですが、1県1港が原則でということですが、香川の方は何か2港くらいが入ったというような所もあるようで、これについてはあまり細かい知識を持っておりませんので、言えないと思えますけれども、やはり少し港の関係では今回は残念なことが続いたかなという思いがしてございまして。

(質問) 平たく言えば、岡田さんの力不足ってことですか。

(議長) そういう個人の力がうんぬんの話では恐らくないと思えます。特に、今の新政権は、かなりそういう従来の誰々の有力議員が物を言ったからこれがこうなるとか、この族議員が力を持っているのでこうなったとかということでは

はなしに、できるだけ客観的な数値だとか、そういうものできちんと透明性の高い決定をしていっていると信じておりますので、そういう個別の議員さんの力がどうだこうだということではないと思います。そういう意味でいけば、例えば、愛知県と三重県と民主党の国会議員の数を合わせれば、恐らく日本で一番数が多いのではないかと思いますけれども、それでも選をもれたということは、それだけ非常に客観的な透明性の高い決定をされたのではないかということだと思います。

（質問） 数じゃなくて、質の高い議員が少数いても、それはそれなりに影響力を持つと思うんですけど。点数が出てましたよね。それからいくと500点代の四港・名古屋の評価というのは、阪神が700点代、東京もそうでしたけど、その辺の200点の開き、あるいは北九州が200点代、そういう点数というのは今お考えになって、まあ妥当なところなんですか。

（議長） 私が妥当かどうかというのはなかなか言えないのですが、北九州の場合はコンテナの取扱量も極端に少ないので、ああいう点数になったのかなと思います。名古屋港・四日市港の場合は、一番高い評価を得た部分もいくつかあると思っております。今後の努力次第では入れ替わる可能性もありますよという大臣のコメントもありますから、まだ諦めずにしっかり努力する部分が残っているのかなという感じがしています。

（質問） 平たく言えば、阪神、特に神戸の復権という意味合いが、点数とかです。それと政務官以上の関西出身の議員達で構成されている部分とかを見ると、割とそういう由来があるんですけど、その辺はお感じになりますか。

（議長） 確かに京浜というか東京湾が一番になるかと思っていましたら、阪神の方が一番で、二番が東京湾だったというのは少し私には意外性がありまして、どうなのかなという感じはしますけれども、ただ、前原さんが京都で、政務三役が関西で、国交省は関西の流れが強いんだという、そういう解釈は全くしておりません。確かに激減をして、神戸港もかつての取扱量はないんですけども、それだけのポテンシャルというのはやっぱり阪神の方は持っているのかなということです。国際的な産業ハブ港湾として生き残っていくんだという、そういう主張も名古屋港の場合もあります。これはこれで名古屋の一つの他の港との差別化の話だと思いますから、こういう方向というのはしっかり堅持をし、名古屋港と四日市港の一港化、これも推進していく中で今描いているビジョンというものを何とか実現をしていく、そのために我々議会も一緒になって努力

をさせていただくということだと思います。

(質問) この形になっても、とりあえず当面の一港化と、将来の一元化という方針はそのまま踏襲すべきだとお考えですか。

(議長) 私の個人的な思いとしてはそうですね。名古屋の方の考え方がどうなのかちょっとわかりませんが、やはり今後の四日市の将来を考えた時に、やっぱり名古屋港と四日市港の一港化というものは避けられないだろうと思いますし、そういう一港化を進めることによって四日市の持つ特色と言いますか、持ち味、優位性というものが生かされるのではないかと思います。

(質問) ドクターヘリなんですけど、意外な結果に2病院選定になりましたが、それについては。

(議長) 意外ということもないと思います。他県で同じような例もありますので、二つの病院を拠点化して、運用していくということは別にそう意外性は僕はないのかなと思っています。非常に南北にも長い県ですし、三重大と山田日赤、この二つを拠点化してうまく運行していただければ、一つの病院に固定するよりも、より幅広い行動ができるのかな、それだけまた県民の皆様方の期待に応えられるのかなと思っています。これからいよいよ始めるわけですが、しっかりと対応していただきたい。その中で、実際に運行していく中で、いろいろ問題点があれば、その都度検証をさせていただきたいと思います。

(質問) 良かったという感じですか。

(議長) 良かったとか悪かったの話ではなしに、一つの合理的な結論だろうとこう思います。

(以 上) 11:09 終了